

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

その折おりの記

京大名譽教授・工博
大正6年卒業 松田長三郎

□九十歳のご高齢で悠々ご静養中の洛友会会長鳥養先生は、遠くへお出掛けになりませんので、去る6月5日、京都で開催の総会において、会員各位の御推挙により、私が会長代行の副会長に選ばれましたことは、大変光栄に存じます。不肖ではありますが、役員・

会員各位の御支援・御協力により、その重責を果したいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

□卒業生の結びつきは、同年度卒業のクラス会を主とした横の連絡、また縦の連絡としては洛友会及びその支部があり、お互に同学の誼しみを以て親睦ははかられています。僅か数年間の同学時代はありますが、夢多き多感の青年時代を、同じ風土、同じ教室で、同じ先生から講義を受けたといふ因縁で、時代を超え、年令を超えての

同学の親愛感は、お互いに、何等の利害関係や対立関係が無いので、会えば、純真な青春時代に立ち帰り、ざっくばらんに青年時代をなつかしみ、また更に将来の活躍を心に期する気持ちにもなるであります。

□洛友会の目的は、会員相互の親睦等にあります。大きな行事は、本部総会（役員会も）、名簿及び会報の発行であります。名簿は毎年発行されていますが、これはなかなかの苦勞であります。会員の

移動が多いので、隔年発行では、名簿の用をなさない現状であります。その訂正の労はもとより、その費用も相当のものであります。これについては、広告等についてもいろいろと御厚配を頂いています。各各位に深く感謝致しますとともに、萬事お世話になっております鳥養会長の応用科学研究所、

特に山本幹事及び職員各位のお骨折りに対して深く感謝する次第であります。会報は従来は隔月発行でありましたが、印刷費や郵税等の値上がりから、昨年度から季刊（3ヶ月に1回）になりました。会員各位の御協力をお願い申し上げます。

また各支部におかれては、夫々独自の活動をされていますし、先般も東京支部（6月13日）北陸支部（6月19日）の総会に、教室の方々とともにお招きを受けて、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。（これらは別に報告されることと思っておりますので割愛させていただきます。）

□今、教室関係の名譽教授は鳥養・私・阿部・羽村・大久保・林（重憲）・前田・林（千博）及び去る4月退官された大谷の9名の諸先生で、正に空前の多数であります。

去る6月12日、京都ホテルで、多年の御功績・御苦勞に対する大谷先生の盛大な謝恩記念式パーティーがありました。想えば今から20年前、私が定年退官致しました後、後任教授に任命されて以来、教育に研究に多くの立派な業績を挙げられ、京大御在職38年の長きに亘って多大の御貢獻下さったことは、内助の功、厚かった令夫人

に対するとともに私の大きな喜びであるとともに、深い感謝の念を禁ずることができません。特に来る一九七九年は電灯発明100周年、又我國の電気記念日の意義ある年でもあります。私は予てから国際照明会議を、我國に招致することを提唱していましたが、昨年ロンドンで開催の国際照明会議で、日本への招致が内定しましたこと、これに対して大谷教授の多大のお骨折りに対して、深く感謝する次第です。大谷教授は、この会議の実行委員長として、愈々御多忙になられますが、今後一層御健康で益々御活躍の程を嚮望する次第であります。因みに同教授は、引き手、数多のなか、従来創立に関与されていた福山大学の教授として当分御活躍される予定であります。

□去る6月16日、私は箱根小涌園におりましたが、当日未明三時五十五分頃、一羽の鳥が啼きました、続いて方々の鳥が啼きました、暫くして、軽い余震と地震がありました。私は私は正午迄に京都へ帰らねばならなかったもので、タクシーで小田原駅へ急いでいきましたが、市内へ入ってから運転手の方が、今地震ですと云いました。私は別に感じなかったのですが、窓外を見ますと、並木が少しゆれていました。別に大した地震とも思はな

かったのですが、駅のアナウンスは、7時45分頃、震度4の地震が東京・静岡間にあり、新幹線は上下とも運転休止、再開までには少し時間がかかる見込みですから、お急ぎの方は東海道線をご利用下さいと放送していました。結局4時間、遅れて漸く動き出しましたが、そう大した地震でもないのに、我國交通の大動脈が、これでは困るなあとは思いましたが、考えて見れば、世界に誇るこの高速鉄道で、開通以来10年間、無事故といふことは大した輝やかしい成果であり、大いに誇るべきことでありますから、安全運転第一に考へる当局では、慎重の上にも慎重を期して、線路の点検をされたのでありましょう（それにしても徒歩点検とは意外でした）。4時間も遅れたことには、少し気がひけましたが、むしろその慎重な態度に感謝の気持ちで、京都駅に降り立ちました。

□地震と云えば、関東に大地震近しの警告は、幾度か伝えられましたが、今はロッキード事件に消されて、余り問題にされていませんが、いつ何と云うか判りませんが、知らぬが仏ではありませんが、危期は刻々に迫っていると考えねばなりません。地震予知の知識が不十分な現在では、何とも仕方

がありませんが、動物の感受性は古くから伝えられていますし、前記の、時ならぬ鳥の啼き声も、或は何等かの関係があるかも知れません。それにしても電気関係者は、交通・通信・生活・産業等に対する電気の重要性に鑑み、地震対策については、万全の方策を常に整えていてほしいものと願はずにはおられません。

東京新宿の超高層建築群に行つて、いつも考えさせられることは、一たび、電気が停つたらどうなるかとの不安であります。往年、室戸台風の際、大阪に集中する送電線の倒壊で電力が全然来なかつた大事故を想ふにつけても、地震国日本、台風国日本における天災・人災の被害に備える対策が、常に講じられていなければならない感ずる次第です。

□去る6月18日は、京大創立第79回の記念日でありましたが、岡本総長は、京大の過去一年間の情況報告のなかで、ヘリオトロンE(超高温プラズマ発生等)の研究に対し三ヶ年計画で文部省では空前の80億円の予算がついたと報告されましたが、事業界では別に驚くこともありませんが、大学の研究に対する予算としては特筆すべきことでしょう。当面の責任者である宇尾教授に大いに期待するとともに

そのご健闘を祈つて止みません。

□アメリカは本年7月4日、建国200年の記念行事が、花々しく行はれる由であります。これに關して私が感心する一つの事柄は、新聞にも報道されている米国の火星探策のヴァイキング宇宙飛行計画であります。人類の未来に寄せる大きな寄与をねらふこの計画は流石と、その遠大な劃期的事業の成功を祈つて止みません。昨年の8月20日以来、約10ヶ月間、八億一五〇〇万キロを飛び続け、最後の2週間を、火星を巡る円周軌道に乗り、7月4日の記念式当日、ランダ(着陸機)が火星に軟着陸して、種々の学術的探索を行ふ予定と報ぜられたが、或は火星に生物が生息しているをも知れぬという謎、その他の解明に精しい情報

が得られるであろうことは、誠に建国200年にふさわしい、米國ならではの感を深くする次第です。何でも反対と横槍の這入り勝ちの国柄と、このほう大な予算をつけ、破天荒の事業を企画し実行する、世界をリードする責任を持つと自認し自負しているアメリカの壮事を、私は片唾をのんで見守っている次第です。

およそどの科学技術や、事業の開発でも当事者がその成功に万全を期することは当然であるが、や

はりリスクはつきものである。失敗を恐れて、現状維持といふことでは、技術革新は望めない。その衝に當る当事者、これを裁定する指導者の、心構えと勇断が大切と思ふ。何でも反対といふ憂うべき現下の趨勢の下では、手も足も出ぬでしょう。時世に遅れ、落伍者となるは必至で、その例は多い。注意を要することでありましょう。

□物質を際限なく壊して行くと、どうなるかとは、科学者ならずとも、誰でも考えることではあります。分子・原子から電子・プロトン、更に進んで、今では300種以上の素粒子が発見されているが、ロンドン・タイムスを見ていると、最近米國のフロリダ州立大学の物理学教授陣が、南アフリカで採掘したトリウムを含む鉱石に、陽子線を照射することによつて、6つの新元素(原子番号116・124・126等)を発見したと報じていた

(日本の新聞にも勿論報道された)。これは一九二五年、自然元素としてのウラニウム(原子番号92)発見以来51年振りであるという。従来はこういう超重元素は、不安定なものと考えられていたが、これらの元素は重い元素であるに拘らず核分裂を起さない安定元素であることは、非常に興味あることである。(終)

思 い 出

九州朝日放送専務取締役
昭和六年 足立 斌

私は九州に来てやがて二十年になります、故郷でもない九州が何時か故郷になり半生を過すことになりました、これは言いかえれば私がテレビに人生の半ばをささげたと云うことになりましょう、：九州ではずっと九州朝日放送というテレビ会社に勤めて居ります：そこでテレビに關する思い出を一つ述べさせていただきます。

私はかつて九州に来る前郵政省に席をおいて居りその間テレビの標準方式の決定にかかりました、：：：昭和二十七年のこと：：：これはテレビチャンネルの周波数帯巾を六メガヘルツにするか七メガヘルツにするかの決定が一番問題になりいわゆる「メガ論争」なるものが巻き起こりました。

一口で言えばこんなことになりましたが実は大変なことでした、よく鉄道の軌道巾に比較されました、一度狭軌に決定すれば容易に広軌には変えられない、テレビの帯巾巾も同じだということでしたが事実それ以上の問題をやらんで居りました、そしてこれに聴聞という地裁相当の裁判形式迄ふんで決論が出されました。

その論争の要点はいわゆるメガ論争で七メガ論者は七メガなら帯巾巾が広いので当然画質がよくなるそこで将来テレビがカラー化しても非常に有利だという、六メガ論者はアメリカ或はその関連の国々は六メガで輸出その他に有利だ又帯巾巾が狭ければチャンネル数が多くとれる、そしてカラーテレビについてはアメリカでの研究が進んでおり更に将来の技術の進歩も見込めば画質はこれで充分だということでした。

結果として聴聞は六メガを答申し郵政省は六メガに決定しました。かくて日本のテレビは帯巾巾六メガでスタートし現在に至っております。現実は今時予想された通り非常な技術の進歩もあり六メガでカラーも相当に満足する画が送られていきます。併し標準方式など一度決つたらそれは簡単に変えられないと云うが変えることはむしろ不可能です。鉄道の狭軌を広軌に変えるなどより遙かにむづかしい問題です。鉄道は自らの変更だけですみますがテレビは聴取者に迄迷惑をかけます。

全世界のテレビは帯域巾は勿論カラーの方式迄まぢまぢです全く厄介なことになって居ります。

将来放送衛星が出来聴取者を全然別のものにもすれば或は標準方式の変更も出来るかも知れませんが、さて。

技術屋の自己満足と言つて了へばそれ迄ですが画質は少しでもよ

近頃思うこと

住友電工会長
昭和九年卒 阪本 勇



われわれ戦前を知っているものにとつて驚嘆に堪えないことは戦後三十年間の我が国の産業の進歩と経済の発展をして我が国の国際的地位の向上である。

の方がいい、こんなことを考える標準方式の決定など大変なことだったと今にしてつくづく思い返されます。私のテレビにかかわった第一発がこれでしたが併し今後更に技術の進歩もあると期待してさしたる悔は残さないことになるうと願つて居ります。

ようになって来て、国産のコントローラを見掛けるようになっていた。既に工学に興味を持ち始めていた自分は、電車に乗る度に国産コントローラーの調子が良いかどうかを我ごとくように心配したものであった。

昭和九年大学を出て電力会社に就職したが、鉄塔、碍子、電線送電関係は別として発電電所の機器の大半は米国や独逸製品で漸く東芝、三菱、日立其他の製品が使われ始めていた時代で事故でもおこると、やはり国産品は駄目だと囁かれて何かと米独製品に比べて一段下に見られていた。新しい機器の発註の時には仕様書は英文で書くことが多く、またメーカーの仕様書も英文で書いたものと日本語

のものや半々であったように記憶する。おかげで当時の英文作文の勉強が後年非常に役立つている。

事実日本の製品の品質は欧米製品に比べると一段と見劣りがし、例えば大学三回生の時電気試験所で真空管雑音の測定をやつたが、米国のRCAの真空管は規定電圧を掛けると型録に示されてある通りの織糸電流が流れるが、同型の国産の真空管だと電流値にバラツキがあることを発見して、斯ういった隠れた所にも相違のあることを自ら、体験して残念に思ったことが思い出される。

少しは一般人より彼我の技術の差を認識しており、又資源の差を知っていただけにとても勝てる訳はないと思つていた大東亜戦争が、やはり自分の予想通りの敗戦に終わり、戦争中には更に技術の格差が開いて了つて、之ではとても欧米に追付けないと絶望的になつた。昭和二十六年初めて海外視察の機会を得たが、どこへ行つても驚くことばかりで日本の将来はどうなるのだからかと心配した。スペインの田舎で「日本には電車があるか」と聞かれて憤慨すると共に日本の当時の状況を考えるとそう云われても仕方のない点もあつたと思ふのである。

興が始まる。しかもそれは廉からう悪からう式の復興ではなくて、良質にてしかも安価という真の意味の出発が始まる。私が次に海外へ出たのは昭和三十一年だが、ソニーがベルのトランジスタ技術を改善して作つた世界最初の小型ラジオ(と云つてもとてもポケットに這入るようなものではなくB5の書物位の大きさであった)を携帯して行つたら各地で大いに珍らしがられ又感心され、何よりも心嬉しく思つた。それ以来毎年三、四回は海外に出るようになったが、行くたびに日本製品やその宣伝の看板がふえて行き、最近ではニューヨーク、ロンドン、パリは勿論のこと、日本の一般大衆には余り知られていない世界の僻遠の土地でも之らのものを見ない所は稀である。今年の五月に地中海のマルタ島へある国際会議に出席のため立寄つたが、此処でもホンダ、セイコー、ソニー、ダットサン、キャノン、ニコン等の宣伝は行渡つていたしモロッコのカサブランカでも同様であつた。近頃の若い人々には余り感懐はないであろうが、昔を知るわれわれにとつては之らの事実を見聞きすると感慨無量の感じを懐くのである。

斯うした惨めな状態の我が国が朝鮮事変を契機として目覚ましい復興が始まる。しかもそれは廉からう悪からう式の復興ではなくて、良質にてしかも安価という真の意味の出発が始まる。私が次に海外へ出たのは昭和三十一年だが、ソニーがベルのトランジスタ技術を改善して作つた世界最初の小型ラジオ(と云つてもとてもポケットに這入るようなものではなくB5の書物位の大きさであった)を携帯して行つたら各地で大いに珍らしがられ又感心され、何よりも心嬉しく思つた。それ以来毎年三、四回は海外に出るようになったが、行くたびに日本製品やその宣伝の看板がふえて行き、最近ではニューヨーク、ロンドン、パリは勿論のこと、日本の一般大衆には余り知られていない世界の僻遠の土地でも之らのものを見ない所は稀である。今年の五月に地中海のマルタ島へある国際会議に出席のため立寄つたが、此処でもホンダ、セイコー、ソニー、ダットサン、キャノン、ニコン等の宣伝は行渡つていたしモロッコのカサブランカでも同様であつた。近頃の若い人々には余り感懐はないであろうが、昔を知るわれわれにとつては之らの事実を見聞きすると感慨無量の感じを懐くのである。

態に到達することが出来たのであるうか。

西紀二〇〇年には日本は米国をしのいで世界第一の金持国になるという趣旨の予言を書いて、日本人を嬉しがらせた例の「ハーマン、カーン博士はその著書「超大国日本の挑戦」に其の根拠として十三の理由を挙げている。例えば貯蓄率の高いこと、教育の普及、政府民間の協調体制等々であるが、その中で最も大切なことは私は次のことだと思ふ。彼の著書の翻訳書の訳文が稍生硬で判りにくいがそれをそのまま引用すると、「経済的にも、又愛国という点でも、進歩指向的な、目標達成的な、仕事指向的な、満足をあつて引延ばす、忠誠かつ熱心な従業員であること」

長年つきあひのあつた米国の或る会社の社長が訪ねて来た時、その人から次のような申入れを受けた。

「阪本さん、あなたの会社と私の会社が判つて居る。今までは技術のやりとりはロイヤリティーでやって来たが是からはこんな面倒な取引は止めてお互いに無償で技術の交換をやりませんか。お互い優劣をつけ難い技術レベルにあるのだから少し長期で考えればバランスして損得はないでしょ

う。どうです私の案に賛成してくれませんか。」
此の提案に対して私はこう答えた。

「成程、貴方の云われることは尤もでも私出来ればそうしたい。確かにそれの方がお互いに手数が省けて便利だと思います。併し私是不賛成です。その理由は、我が社の従業員、今の場合は技術者である場合が多いと思はれますが、自分が努力して開発した技術が、他社に売れてそれがロイヤリティー収入として会社に貢献しているのを知ることが其の人にとって何よりの励みになり、更に一層自分の仕事に精進する原動力になるのです。無償の交換ということになると、斯ういう個人に対する刺激が薄れるという不利があるので私は反対するのです。」

「それはおかし。若し個人の功績を認めてやるのならば、其の本人に特別賞をやるとか、昇進を考えてやるというのが米国でのやり方ですがね。会社に金が入る入らないは本人とは無関係だと思われませんがね」

「そこが日本人の考え方と西欧人の考え方の相違ですよ。我々日本人は自分よりも自分の所属している団体の利益の増進への寄與に一層の喜びを感じるものなので、併し私は古い日本人の考え方

に執られてはいるかも知れない。幸い此処に若い技術者が多勢同席していますので此の連中が私の考え方に賛成するか、それとも貴方の考え方に賛成するか聞いて見ましょう」

以上のやりとりの後、丁度居合せた数人の若い技術者に念の為私の考えと彼の考えの相違を説明してどちらに賛成するかを訊ねて見た処、異口同音に彼らは私の考えに賛同して呉れた。

私は近頃の個人主義万能の風潮からして若い人達の考え方は或いは私と違っているのではなからうか。此の米人社長の説く主張の方に賛同するものが多いのではないかと秘かに危惧していたのだが、皆の答えを聞いて安心すると共に、まだまだ日本は有望だと思ひ嬉しく感じたのである。

「國を富まし、兵を強くして絶遠の東洋に一新文明國を開き、東に日本、西に英國と相對して後れを取らぬようなられまいものでもない」と福沢諭吉は初めてヨーロッパを見て其の感想を自伝に書いていたが、我々の先輩は此の氣概を持って嘗々努力して今日の日本を築き上げて来たのである。今はもう世界中どこへ行っても日本が先進工業國であることを知らぬ者はいない。日本に電車があるかと聞く人もいない。それどころか外

國人が自國の新製品、新技術を紹介する時に必ずといっても良い程「日本にはもっと新しい良いものがあるだろうと思ひますが……」と前置きして説明を初める。戦前のことを知る我々には之は涙の出る程感動的なことであると共に、果して此の状態が今後共永続するのであるうかと心配になる。

人間の歴史に現われた過去の文明は外敵によるよりも自らの腐敗によって崩壊して行つたものが多しといふことであつて、わが國の最近の風潮にも各所に斯うした亡國の傾向を見かけるのであるが、わたくしは自分の欲望を満足させるよりも、自己の所属する団体の利益の増進を重く見るというカーン博士が指摘し、私の紹介した挿話からも実証できた古い時代の考え方が生きてゐる限り、日本の將來はまだ明るいといふ氣がする。そして斯うした考え方を何とかして存続させて行きたいと念願するのである。



おえはんとごりよんさん

大正七年卒 樋口貞三

浪華商業の中心地船場には、昔からこうした言葉が専ら用いられている。今頃は芦屋辺に移動した様だが、「おえはん」は大丹那の妻であり一家の主婦を示し、「ごりよんはん」は若奥様と云う処である。「おえはん」は「お家様」であり「ごりよんさん」は御療人様である。さて、家を司る主婦は「おえはん」であり寮から店に通ふから「ごりよんさん」であつたものが其後の変化で店の台所をきりもりする現役婦人を「ごりよんさん」と呼び退役婦人を「おえはん」と呼ぶ様になつたのである。極めて古い文化の関西では、言葉が追々と洗練されて、丁度小石が川の流れに丸くなるのと同じく、とげとげした関東弁に比べると随分となまっちよろしく聞えるのである。丁度仏蘭西語がなだらかなり独逸語がごつごつしている

のと同じで、文化の古さを示すものである。徳川幕府が江戸を開き明治の御代に遷都が行はれ、其後政治は元より現在では産業の中心にまでなつた東京都であるが、文化の古さはどうにもならず、京大阪を中心とした関西が文化的には古さと伝統を持つことに変りはない。
そこで関東心酔者が田舎弁として関西弁を扱ふことは鼻もぢならんことであり、独逸人が仏蘭西人を憎むと蔑視しているのと同じであり、逆に仏蘭西人は独逸人を野蛮人と心得ているのと同様、関西人から見れば関東弁ほど洗練されない粗野な言葉はない。特に女性にボンボンやられると全く嫌な氣がする。
男は関東弁、女は関西弁でと云いたいが如何。
(大阪東区船場小学校出身)

坂道を走って教壇に立つ

東京理科大学 昭和十年卒 佐野一雄

昭和四十五年東芝を停年退職し 勤めることになつた。
専任教授として着任して教室で



者がいる。

対策…その学生に講義中の事項を質問して答えられなければ、大声で自分の姓名を名乗らせてブックポイント一本と称してエンマ帳に記録する。

4、公德心が無い。

一〇〇人を越える学生に接したとき、これで見果して社会に適合した人材を送り出せるだろうかと思いを抱えこんでしまった。

状況と実行した対策は次の通りである。

1、遅れても平気。

9時から始まる第1時間目の授業では続々と遅れて来る。演習問題に対する解答(レポート)の提出が遅れる者が多い。

対策…「実社会では共同作業であるから、一人でも遅刻すればチームに大きな迷惑を及ぼし、あらかじめ決められた会議の日に間に合わないレポートは何にもならない。大学は実社会の訓練の場である。」ことを説明して、出席をとって遅刻は一切認めず、遅れレポートは受取らないことにした。

2、机上に頭をのせて眠りこむ者がいる。
対策…アルバイトや運動の疲れによるものだろうが立たせて体操をさせる。

3、教室の後方で雑談したり、他の科目のレポートを写している者がいる。

た。

しかし、授業中眠ったり雑談したりするのは私の講義に魅力がないためかも知れないと思いついてハツとした。それで次のように改めた。

1、教科書にない重要事項をプリントで補い、学生が自分で学ぶことを本務とし、限られた講義の時間には考え方のこつ、わかりにくい壁の打開、重要事項などに重点をおいて丁寧に説明することにした。

2、演習問題を精選し、ひんばんに日限を切つて解答させることによつて教科内容を着実に印象づけ、解答を受取つてから必ず一週間目に記録して返却することにした。

学年の始めに主旨を説明して学生に納得させてからこれらのことを実行したが、遅刻はなくなり講義は静聴するようになり、学生の態度は著しく改善された。選択科目でも毎年受講者数は増し、私の研究室で卒業研究を希望する者が20名を越えるようになって、私は講義をするのが益々楽しくなり、休みが続くとがっかりするようになった。

工学部は強電関係の先生が少なく、空いている強電科目は依頼されれば何でも引受けたので担当科目は電気回路、電気機器と設計、

発変電、電動力応用、実験、理工学部の上就職幹事を勤めて四年目になる。

担当科目が多い程学生に接する機会も多く都合がよいが、体が参つてしまえば元も子もないので体を鍛えることにした。

朝六時過ぎに起きてテレビ体操、ラジオ体操を済ませ、ラケットを持って近所(コースに坂道を入れる)を走り、家の前でラケット(空気抵抗を増すためカバーをつける)を振る。フオー、バック、サービス、スマッシュ、ジャンピングスマッシュ、ボレーなど全フオームを行ない、バランスを考えて右手が終れば左手で行なう。少々雨でも平気である。

朝早いから会うのは新聞配達と二三人の決まった通勤者だけで、「お早うございます」と笑顔で声をかけてくれる。それから冷水摩

擦すると丁度七時になる。週一〜二回、二〜三時間本物のテニスを楽しむ。

ルーの法則によれば、強い運動を日において時々行なうより、軽くて毎日運動を続けておれば老化防止に大きい効果があるという。頭脳もそうらしい。毎日変わって色々な筋肉を働かせるテレビ体操は最適であろう。

この運動を始めてから肩こり、指の関節や腰の痛みは忘れてしまった。夜十二時頃まで起きていても大抵翌朝六時には目が覚めて、今日も坂道を走り教壇に立ちたいという気がわく。休んでいるより出動した方が体の調子はよい。

今年から始まった二部(夜学)の電気工学、も担当することになっている。

毎朝一時間の鍛練と養生を重ねて永く人材に育成に役立ちたいと念願している次第である。

アメリカ雑感

四国電力(株)原子力部 町田修 一
昭和三十三年卒

昨年秋、五名(うち四宮君(昭和四十一年卒)を含む)でチームを組み、三週間ばかり米国東部の原子力発電所等を訪問しました。

この時のことを書いたらどうかとお話がありましたので、今更、

御紹介するようなめずらしい事もありませんが、私なりに見聞して来た事や感じたことを書いてみました。

NRRC(原子力規制委員会)の資料公開

ワシントンで、NRCの資料公開室を訪れ原子力発電関係の資料調査をしました。訪問前は、市民権を持たない我々がぶらりと行っ
て、果して資料を見せてくれるかどうか内心危惧していましたが、
全くの取越苦勞で図書館同様に
も自由に閲覧することが許されて
いました。その上コピーが必要な
れば、コピー係の娘さんに頼めば
一枚八セントですぐやってみらえ
ました。

この公開室は、ATOMICをも
もじったと思われるMATOMIC
Cビルディングの一階にあつて、
職員は見たところ五人ばかり、閱
覧室には十五人ばかりの机と椅子
が用意されていました。公開文書
には、NRCの発行文書、原子力
発電に関する許認可文書、NRC
と電力会社間のやりとりした文書
等、かなり詳細な文書が含まれて
いました。

原子力発電所で日本と変わった点
原子力発電所を訪れてまず目に
付くのは、その建物を取り囲む背
の高い金網です。この金網はサポ
タージュに対する警備用だそうで
すが、その中に入るには必ず守衛
所を通ることになっていて、守衛
所では、金属探知器等による持物
検査や退出時にはGM管による放
射性物質持出防止検査があり、飛
行機に搭乗する時以上の厳しい検

査をやっていました。また、建物
の主要な扉には、特定の人に
渡されている金属札を挿入しなけ
れば開かないようなロックがされ
ているし、発電所構内の所要場所
には、守衛室での監視用に首振り
テレビカメラが配置されていまし
た。しかし、このような不快な守
衛所を越えたと発電所の技術陣は
極めて解放的で、知っている限り
熱心に調査に応じてくれました。

発電所の機器の組合せでは、ロ
ビンソン発電所で、一号機の石炭
火力ユニットに並んで二号機は原
子力ユニットで、中央制御室も、
火力と原子力が扉一枚を隔てて隣
合っていました。また、ミルスト
ン発電所では、一号炉が沸騰水型
(GE社製)、二号炉が加圧水型
(CE社製)、三号炉が加圧水型
(WH社製の予定)で、丁度日本
の火力発電所のように、電力側の
機器選定の自由度が高く、また、
電力会社の運転技術能力に余裕が
あるように感じました。

そのほか、運転管理面で、加圧
水型原子炉の蒸気発生器がある程
度漏れていても、許容限度内であ
れば運転を続け、核燃料棒が曲っ
ていても原子炉に挿入出来ればそ
のまま使い、放射性管理区域でも
簡単な上衣程度で立入り方が許さ
れ、また管理区域の入口にはチェ
ックマンさえ居ないとところもあ

り、豊かな経験から割り切った運
用をやっているようでした。
次に、プレイリーアイランド原
子力発電所を訪問した時のこと
です。見渡す限りとうもろこし畑と
いったミネソタの平原を早朝発電
所に向つていた時、発電所とおほ
しき所にもくもくと白煙が上り空
一面に広がっていました。さては
「原発故障」かと近づいてよく見
たところ、原子炉から少し離れた
所にある湿式冷却塔からの蒸気で
した。日本だと恐らく「原発大爆
発？」との騒ぎにもなりかねない
感じでした。この冷却塔は、ミン
シッ川への温排水の影響を少く
するためにレッドウィング市が発
電所へ貸与しているというもので
した。しかし、この白煙も気温の
高くなった午後にはすっきり消え
失せていました。

汚れた都会と広大な田舎
途中ニューヨークに立寄りまし
たが、飛行機やエンバイヤステ
ートビルより見ると美しいビル街
も一旦その谷間に入ると薄汚れて
いて、日本の都会の比ではなく、
特にタイムズスクエア付近の黒ずん
だ感じと古新聞が舞い上っている
風景はいただけませんでした。
ニューヨークでは、財政難から
多数の警官を解雇し治安が悪いと
聞いていましたが、タイムズスク
エアでは、各ブロック毎に数名づつ

の警官が警戒に当り、地下鉄の切
符売場は金網でガードされてお
り、ホテル各室の注意書には、扉
に二重の施錠を怠ると盗難に会う
恐れありと書かれているのを見る
と、治安の悪さも噂だけではない
ようでした。そのほかのロスアン
ゼルスなどの大都市では、日本の
都市とあまり変わった感じはしま
せんでしたが、田舎へはいり、ミ
ネソタ州の見渡す限り一面に広がる
とうもろこし畑、サウスカロライ
ナ州の綿畑、ニューヨークランド
の延々と続く紅葉の林などをドラ
イブして、今更ながら広大な国土
に驚嘆しました。

食事とチップ
合理的ですべて迅速に事を運ん
でいるように見える米国で理解し
にくいのは食事にかける時間の長
いことです。彼等は注文した料理
が出されるのが遅くても一向気に
止めず食事はのんびりと楽しむも
のと割切っているようです。我々
も米人なみということで、ミネア
ポリス郊外のレストランで食事を
した時のことです。近くにインデ
イアン部落指定保留地があること
もあって、インディアンススタイル
の若いウェイトレス等が腕に一杯
皿をかかえて忙しそうにテーブル
の間を行き来して居ましたが、例
のフルコースで、飲物の注文を度
々取りに来るし、それが終ると食

事の注文で、各人各種の注文にも
間違ひなく処理し、食事中には数
回食事の工合はどうかと機嫌伺い
に来、主食が終れば愛嬌を振りま
きながらデザート注文を取りに
来て、実に延々三時間にわたる夕
食でしたが十分楽しむことが出来
ました。このウェイトレスのお客
にサービスしようとする態度には
感心し、たつぷりチップをはずん
だことは勿論です。これに対し、
ロスアンゼルスのレストランで
は、各人が異った料理を注文す
るとウェイトレスの機嫌が極めて悪
く、どうも日本人グループは、そ
の中で慣れた人がまず注文し、他
の人は同じものを注文することに
なっているらしく、それに慣らさ
れているようでした。折角の夕食
が台なして、文句を云ってチップ
を減らせたことは勿論です。常々
わずらわしいと思っているチップ
もこの時ばかりは極めて合理的な
習慣であると思いました。

自動制御工學講座
第2次世界大戦が終つて間もな
い昭和二十三年、フォード自動車
会社社社長ハーダ氏が、トラン
ス・ファミンを導入して作った
同社の新生産ラインの特徴を表現
するのに「オートメーション」と
いう新しい言葉を造つたのが、オ

研究室紹介

自動制御工學講座

第2次世界大戦が終つて間もな
い昭和二十三年、フォード自動車
会社社社長ハーダ氏が、トラン
ス・ファミンを導入して作った
同社の新生産ラインの特徴を表現
するのに「オートメーション」と
いう新しい言葉を造つたのが、オ

オートメーションという言葉の最初であると考えられている。しかしオートメーションが、元祖である米国において本格的にクローズアップされたのは昭和二十八年頃である。わが国においては、昭和三十年生産性本部が設立され、早速調査団を派遣したのが本格的に取組む開始であった。

④ Automation, Automatic Operation (自動操作) あるいは Automation (自動化) を縮めたものと云われている。その初期においては、フィードバック制御技術を取り入れた生産方式をオートメーションと呼んでいたが、その後電子計算機という超強力な道具が自由に使えるようになってから、その意味はますます拡大され、単に技術的な立場だけではなく、経営的な立場も含めた自動化の方向に変わって来た。学術語ではないので定義はないが、概念としては、「オートメーションとは、機械・材料・人間などを素材とし、これらを最適な状態で使用し、最も効率よく生産する手段を産みだすため、個々の作業を分析し、組織し、制御することである」といってよいであろう。

さてわれわれの講座は生産工程のオートメーションの中心的課題である自動制御の研究・教育を行なうことを目的に設けられたもの

で、昭和二十九年電気工学科の設立に伴い、その一講座として発足した。当時はオートメーションの播らん期で、その時にあって早くもその重要性を察知され、いち早く講座を設立された諸先生の先見の明には只々感服の外はない。

その後情報工学科の創設に伴なう電気系学科の再編成によって、昭和四十六年以降電気工学第二学科に属し今日に至っている。その間における急速な科学技術の発展に対処し、講座のカバーする分野を拡大し、従来のフィードバック制御を中心とする自動制御からさらに制御工学・システム工学・情報処理・バイオニクスをも包含させて運営されている。以下講座の研究の歴史をも含めて活動の主なものを紹介しよう。

(1) サンプル値制御系の研究

計算機を含む系では必然的にサンプル値系となる。その重要性に鑑み、講座開設当初より着手、Z変換、有限整定系、非線形サンプル値系の自励振動など、わが国のこの方面の研究の草分け的役割を果たして来た。

(2) 新制御方式の理論的研究

フィードバック制御理論体系の骨格が完成するに及んで、次ぎの世代の制御方式として提案されたものに適応制御・学習制御などがある。前者は、動物のもっている

適応性と同様に、制御系の動作条件が変化したとき、変化を自動計測して新しい環境に最もよく適合するよう制御の方法を自動的に変化するような機能(適応機能)を具備した制御法である。その代表的なシステムである最適化制御について詳細な理論的検討を加え、その設計法を確立した。また学習制御とは、制御経験を積み重ねると段々制御が巧妙になる機能をもったものを云うが、われわれは、統計的決定理論による最適化制御系にゲームの理論を併用することによって、経験回数の極めて少ない初期段階から、一貫して学習機能を付与することに成功した。

(3) 大規模システムの制御理論の確立

電力網・通信網・生産システム・交通システムなど、あらゆる分野で巨大なシステムを取扱うことの必要性は、非常に高まっている。このような巨大なシステムの制御法・安定判別法・設計法などの確立は、制御工学あるいは、システム工学が重要課題の一つであって、われわれの講座の最も力を入れて研究している課題である。すなわち、非線形要素を多数含む巨大なダイナミカルシステムを、いくつもの小さなサブシステムに分割し、これらが相互に結合されてできたものと考え、各サブシ

テムが孤立して存在するとき安定であると仮定したとき、全体としてのシステムが安定であるための条件を極めて簡単な形で与えることに成功した。この成果は海外にも広く知られている。つぎに同様な考え方で、多次元リレーを多数含むサンプル値スタティックシステムの応答が非振動となるための条件をえた。この結果は電力網における電圧無効電力制御に当って、系統に動揺を生じたとき、変圧器タップおよびコンデンサバンクの操作を各変電所毎に行うとき、スムーズに許容値に収束させるための方法を保証するものである。一方巨大なダイナミカルシステムのフィードバック制御装置の設計法を現代制御理論と古典的理論の両面から究求し、実用的な設計法の確立を目指している。また遠方制御のように雑音を含む通信線を介して制御する最適制御系を対象に、通信理論と制御理論を融合させた新しい制御理論の開拓を進めている。

(4) 応用電子装置の開発と実用化

講座開設以来引続き行われているもので、コンピュータ関連装置と自動制御装置とに大別できる。前者には各種のアナログ記憶素子及びそれを用いたデイレインシセサイザ、ディジタル微分解析機、AD変換器、画像入力装置な

どがある。中でもディジタル微分解析機については計算誤差について詳細な理論的検討を加え、更にクロックサイクル2メガの解析機を会社の援助によって完成させた。この速度は当時(昭和三十六年頃)としては画期的なものであった。一方自動制御装置としては、有限整定制御装置、多重サンプル値制御装置、大電力サーボアライザ、零交叉波動特性自動測定装置などがある。これらのうち多重サンプル値制御装置は会社の生産工程に組込まれ期待通りの成果を挙げ永く実用に供された実績をもっている。

(5) バイオニクスの研究

適応性・学習機能・情報処理など制御の高級かつ巧妙な実施例は生物に見られることが多い。そのような意味で、われわれの研究室においても生体における制御の研究を行っている。ホルモン分泌のシミュレーション、甲状腺欠損像の自動判別、血球循環のシミュレーションと血球障害疾患の自動診断などの研究を進め成果を挙げている。

現在われわれの講座は近藤教授、安藤助教授、荒木講師、宇山助手、田中技官によって構成されている。

先にも述べたように自動制御関係の講座としては全国に先駆けて

開設されたのであるが、今日では機械工学科、化学工学科、数理工学科など各分野で類似の講座が開設され、その数は京大工学部だけでも狭く限定しても五指に余る賑さで、その中で、われわれの講座は工学的部電気系学科に開設され

たものであることを認識し、その特徴を活かした研究を進めたいと考えている。
今後も洛友会々員の方々の絶大なご支援ご鞭撻をお願いして結びとします。
(近藤文治記)

ヨーロッパ親善囲碁の旅

富山工業高等専門学校
昭和九年 卒 斉藤敏信

日本棋院の機関誌「棋道」上にヨーロッパ親善囲碁旅行の広告が載ったのは昨年五月号であった。

外普及に、より効果的と日本棋院が判断したのかも知れない。
私がこの旅行に参加しようとした動機は勿論そのこととは関係がない。その証拠に三年前グアム島へ船で行く「洋上囲碁教室」にも参加した。そのとき指導された専門棋士は村島八段であった。村島先生はお爺さんであられることを思ひ合わせて納得して頂けると思う。

ヨーロッパ親善囲碁旅行の広告が載ったのは昨年五月号であった。キヤッチフレーズは「小川誠子・小林千寿両女流棋士とヨーロッパ十三日間囲碁の旅」となっていて、小川・小林両三段の写真が掲げられてあった(現在は両棋士共四段、以下三段と書く) いづれも二十才前後の美しく可愛らしいお嬢さんである。碁を知らぬ人が見ればこんな小さな子供?(失礼)が一行の立役者となってヨーロッパに遠征しようなどとは信じられぬに違いない。しかしわれわれアマチュアにとっては専門棋士の強さは隔絶的で、しかもそのアマのレベルが高い程イヤという程思い知らされるのである。紅毛碧眼の荒くれ男を盤上でころころ打負かす専門棋士は、美しく可愛らしい大和撫子である方が碁の海

なりました。渡航手続や旅費の調達もさること乍ら、それよりも私の碁の段位についてである。私は昭和三十三年に四段の免状を貰っている(四段といっても勿論アマの四段だから大したものではない、もっとも持たぬ人から見れば神様みたいなものだけだ……)
今度の旅行ではロンドン、パリ1、およびクレム、オーストリ

ア)で外国人と打つことになってくる。四段よりも五段の徽章を見せてオドシてかかれれば何かと有利になるだろう。それに今回の企画はいづれ日本棋院の活字になるだろうが、そこに四段と書かれればは悔を千載に残すことになる、何とか今のうちに五段を間に合わせねばならない、という訳で若干背伸びのうらみがないではないが八方手をつくして五段を獲得した。

出発は七月十八日であったが、それに先立って七月七日東京の日本棋院で旅行の説明をかねて小川・小林両棋士による棋力認定指導碁会が開かれた。ここで初めて参加者の名簿が渡され、お互いに見知り合った。一行の総員三十名、うち一般参加者は二十四名であった。

おっしゃる。専門棋士が「こまかい」と言うのは自分が勝っているという意味である。観念して侵分(よせ)を打った。損がかさなって遂に逆転、結果は七目の敗であった。
かくして試験碁は不首尾に終わった。「ヨーロッパへ行くな」か「行っても五段は無理だから四段か三段で打て」かと心配したが、そんな気配はなかったので安心した。
七月十八日(金)
羽田空港に集った。一行三十名の内訳は次の通り。
一般参加者二十四名中、碁を打たれない人は四名、残りの二十名はみな一座は有段者で、五段三名(私を含めて)、四段四名(内女性一名)、三段七名(内女性一名)、二段二名(内女性一名)、初段四名(内女性一名)である。
この一行の主役、小川・小林両三段
日本棋院専門棋士榎原章二九段、同じく加納嘉徳九段も同行される。お二人はクレムスでわれわれと別れ、レーニングラート、モスクワに向かわれることになっている。

私の棋力認定にあたられたのは小川誠子三段である。先刻から計画の説明や会場の世話をしていた日本棋院編集課長酒巻忠雄氏(アマ六段)がそばへ寄って来て三子置きなさいと言う。ン?!私はまだりなりに五段である、この小娘(失礼)に三ッ置けとは情けない、さてはこの私を老人と見て侮ったかと、あたりを見廻してみたら、しかし大概そのくらいが相場らしく、むしろ私よりも沢山の石を置かされて、しかも苦戦してい

る人が多いことが判ったので安心した。
さて三ッ置いたものの専門棋士の怖わさを知っているだけに慎重に配石した。慎重に過ぎると緩着となつて足らなくなるし、攻め過ぎるとあまされて破綻する。そのかね合いがむつかしいが兎に角中盤を過ぎて優勢を確信した。酒巻課長がときどき覗きに来たがナルホド!という顔付であったと思う。中盤が過ぎても黒が優勢とあっては白のピンチである。小川三段は美しい顔を心持引き締めて少考した。そして放った勝負手は黒模様への打込みであった。

このほかに一行の随行員日本棋院編集課長酒巻忠雄氏(前出)、日本交通公社添乗員野明頼公氏、以上三十名である。

私もここが勝負どころと見て長考した。周囲の碁はあらかた終って打っているのは私一人のようである。長考の後打った私の石を見て小川三段はかすかに頷いた。ナルホドという訳である。勿論感心した訳ではないがまんざら見当はずれでもなかったらしい。頷かれたのはしかし予期された手であったのだから。みるみる黒地は痺せ細つて勝負は判らなくなった。狼狽した気持はさらに悪手と呼んだ。

こんな時にまたまた酒巻課長が寄って来た。私が投げないのを見て、定刻を過ぎているのを気にしているらしい。それを察してか小川三段は「まかいのですよ」と

このほかに一行の随行員日本棋院編集課長酒巻忠雄氏(前出)、日本交通公社添乗員野明頼公氏、以上三十名である。

七月十九日(土)
ロンドン市内観光
五月二十日(日)

ロンドン・ゴ・センターで日英対抗戦。碁センターの主人G.S.T・ダウシーさんは三十五、六才のこやかな紳士。日本に留学中碁にとりつかれ、勉強を碁の修業に切りかえて四段を獲得、帰国してこの碁会所の経営にあたっておられる。

さて日本軍の主将は菅野昭五段、副将はかく言う拙者、三将は諸橋鉄弥五段(以下略)

これに対する英軍の主将はポール・プレスコット四段、副将はトニー・ゴッダード四段(以下不詳)

英国にはダウシーさんのほかにいま紹介した二人はとび抜けて強く、英国の三傑といわれている。ただしダウシーさんは本日の試合には加わっておられない。

ちなみに私の相手T・ゴッダード四段は昨年度的全英チャンピオンを獲得、賞品として本年一月七日から三週間日本に招待され、觀光をかねて碁の勉強に來日した。帰国までの三週間は連日、日本棋院へ通いづめでとうとう予定していた日本觀光旅行は棒に振ったという後日談の持主。

さて戦いは主将、副将共日本側が勝ち、全体では十二勝七敗とな

った。主将と副将は先で打ったが三将以下は幾つか置かせている。ことに末将あたりでは五子も六子も置かせているから勝敗の数はあまり重要でない。

七月二十一日(月)

ロンドン空港を飛び立ってフラー市市内見物。

七月二十二日(火)

パリーの囲碁クラブ訪問。指導しているのは日本人でなかなか盛んである。私の相手は三段なので向二子で打ったが存外に強く九目敗、全体では十勝七敗一ジゴとなった。ただしトップクラスは段割通りで打ったが末将あたりでは一昨日英国での成績にかんがみ、先

方の置石を増して調整したのもあるから、スコアが接近していても仏軍が英軍よりも強いわけではない。

七月二十三日(水)

ロワール河畔の古城めぐり一日観光。

七月二十四日(木)

パリをとり立ってベルギーのブルリュッセル空港を経由、スイスのチューリッヒ空港着。

七月二十五日(金)

ユングフラウ一日観光。

七月二十六日(土)
スイスを発ってオーストリアの

ウィーン空港着。シェーンブルン宮殿(神聖ローマ皇帝、ハプスブルグ家の居城)を見物。目的地クレムスの町に宿泊。クレムスは閑静な保養地。明日から二週間、全ヨーロッパ囲碁選手権大会が開かれる。

七月二十七日(日)

会場は市公会堂らしい大きな建物で、すでに男女青年が一杯集まっていた。今年は第十九回大会にあたり毎年各地も廻りになっていく。今回の参加者は二百名位で、優勝者は日本航空が日本へ招待することに なっている。

正面演壇の壁には風格のある日本文字の掛軸が五幅掛けられている。いづれも日本の高段者の筆になるもので碁の真髓を表わす言葉が達筆で書かれてあった。

会長その他いろいろの名士、関係者が挨拶に立ち、それを通訳が英語で言い直す。日本からは大使館参事官、日本航空支店長、および加納嘉徳九段がマイクの前に立たれた。

挨拶が終わると会長とクレムス市長が大碁盤に向い、市長が黒で五手まで打ち満場拍手のうちに開会式は終わった。

それから別室でわれわれ一行の歓迎のパーティ。終つていよいよ親善試合。

酒巻氏によると主将菅野五段の相手はマッテルン、私の相手はウインマーが予定されていた。しかし二人とも定刻が過ぎても現われず、止むなく菅野主将には在住の日本人某氏が代打、これは菅野氏の勝。私の相手は繰下って敵

の三将(五段)と打つ。握って私の黒。結果は黒八目の敗(盤面三目、コミ五目)。全体の成績八勝十三敗。

さすがに全欧州連合軍ともなれば粒が揃いロンドンやパリーのようには行かず、はじめて日本軍が負け越した。これで出発以来通算三〇勝二七敗一ジゴとなり日本軍の辛勝に終わった。

碁は中国で初めは天文と易の研究道具であり、それがゲームの道具となったといわれている。日本では織田、豊臣、徳川と三代にわたる三百年間手厚い保護を受けたので花開いたのは日本に於てであった。単に勝負を争う智的ゲームというだけでなく、哲学的ともいえる深い幽玄性は世界に類がない。それが漸く認められて最近は

急激に世界の各国に拡がりつつある。日本が碁のメッカたり得るのは果していつ迄かと案ぜられる程であるがそれはそれでもよい。人類共通の文化として大切に育てたいと思うのである。

昭六会のこと

昭六会の輩は集会好きの気の合った連中である。毎年一回集まろうということになり、昨年の東北旅行について今年は琵琶湖東岸を訪ねることとなった。

六月五日新都ホテルに於ける洛友会総会のあとをうけて大津市ホテル紅葉に席を移し、ホテル直行組と合流、総員二十六名、内同伴四組という盛況である。

数年目に合わす顔にはやはり変わったなという感じであるが、互いに談ること数分で四十五年の歳年を一気に巻き戻して学生時代に帰える。宴の進むにつれて、唄は唄を呼んで飲まず、パイオリンの伴奏も入って時の経つを忘る。

明朝九時一同迎えのバスに乗り、大津を後に栗東を経て水口町へ。車は細い田舎道をしばらく進むうち大池寺(だいちじ)に至る。そこはもう外界とは隔絶した静寂の域である。小堀蓮州の作という枯山水の庭に歓声をあげる。大波、小波を表象するサツキの大刈り込みは背景の老松と見事な調和を作っている。本堂に至れば床に敷きつめられた瓦の優雅さに阿弥陀仏が一段と美しい。

車で再び国道一号線、三〇七号線を経て蒲生町石塔寺(いしどうじ)に至る。山門に入って百數十

段の石段を登り切ると素朴のうち
に美しさの漂う一段と大きい石塔
(阿育王塔)を囲んで、小石仏と
小石塔の集積である。その数八万
八千体という。元龜の昔、織田信
長によって寺は焼き払われ、石
仏、石塔四散したものを拾い集め
たのだという。

次の訪問予定であった西明寺
(さいみょうじ)は時間の都合に
て割愛し、一路彦根へ。伊井大老
の(下家敷であったという八景亭の
池畔の座敷にて安政の昔を偲びつ
つ昼食、歓談しばし。玄宗皇帝の
離宮の名をとったという玄宮園を
ぐるりと廻って彦根城を訪う。

車は最後のコースを米原駅へ。
駅頭来年の再会を約して解散
す。(吉田記)

第14回

らっきょう会報告

昭9 河野

らっきょう会(東京及び近県在
住昭8~11年卒の洛友会員のつど
い)

とき 昭和51年2月19日(木)

午後六~九時
ところ 新橋島森通り料亭

「两国」

出席者

昭8 蒲生朝郷・久保久雄・田

井梁之・田中信高・西山安三

昭9 石川弘文・市村宗明・河

野勝也・松井茂彦
昭10 有馬敏彦・井上友一郎・
大塚好造・塩沢弘・清水威寛
昭11 古池弘正・杉本省一・直
海登良衛・中山健一・福光勉・
船谷辰男 (以上20名)

(ちなみに、50年末の名簿によ
ると会員総数44名で、出席率は
45%)

ときあたかもピーナッツが火を
ふきはじめた頃であったが、かか
る浮世の俗人のことにはあまりこ
だわらない年令に皆が到達しはじ
めたせい、あまりその話は出
ず、むしろ孫や自分の健康保持に
関する話題が多く、ちゃんこ鍋を
つつきながら一同元気に時間いっ
ぱい愉快に談笑し、例によって蒲
生氏の音頭で校歌?きおん小唄を
高らかに斉唱して散会した。

国宝建築修理工事現

場見学と関西デルタ

会の発足

五月八日(土)の午後新緑に映え
る古都奈良に集って、目下進行中

の大仏殿昭和の大修理の見学勉強会
を兼ねて、関西在住の電講卒業生
の親睦のデルタ会を発足させよう
と立石、森岡先輩の呼びかけで有
志五十名近くが寄った。教室から
は近藤文治先生に特別参加して戴
いた。
今回の工事に関係している山口

氏(昭11)が概要と世界一の木造
建物を覆う須屋根の建設工程の説
明を聞き、北側に設けられた大型
エレベーターで既に瓦の下ろされ
た二階の作業床を一周し、唐破風
の天井から白砂参詣道の反射によ
る自然採光の智慧を教えられ、つ
いで作業直前の三階床では軒先の
巴瓦には直接手で触れることが出
来た。明治の修理(明38~大4)

には、長大丸太材を組合せて若干
の機械も使用されたが、人力を主
として行われたが、今回は鉄骨の
工場熔接加工で高張力ボルトで大
型建設機械をフルに駆使して、狭
い現場で順序よく建て上げ、省力
化と安全確保に努力したとのこと
である。また内部には搬送機械や
防災施設も一般の工場以上に充実
している。一枚が十五疋もする特
別の大版瓦(普通の約八倍)を約
十二万五千枚も扱うにはこれぞな
くはと理解出来た。シーズン中
で参詣客で賑う堂内も適当な人工
照明装置が取付けられ、従来通り
支障なく拝観が行われている。幸
い登壇の許可を得ていたので、仏
像周辺の運弁に残る天平時代から
の美しい毛彫も目の辺りに見るこ
とが出来た。つづいて会場を東大
寺本坊客殿に移し、記録映画を見
せて戴き、この席を借りて発会の
決議を行い、夕食を共に歓談し乍
ら、今後は昭和年代の卒業の人達

が中心となって、この様な楽しい
機会を作って気軽に集れるよう進
めて行きたいものであると諸先輩
から励まされた。今回は東京、名古
屋、徳島からの参加もあり、古瓦
の拓本に記念の寄せ書きをして半
日を愉快に過ごした。この催しに東
大寺当局が何かと御便宜を取計つ
て戴いたことを末尾に記して、感
謝の意を表します。

なお、今回連絡のとれなかった
方で見学を御希望の向きは、私ま
で往復ハガキでお申出下さい。秋
頃に再度お願いをして見るつもり
です。(参加予定人員約20~30名
まで)

関西デルタ会の幹事は、次の通
りである。

- 昭11 藤村俊一 昭12 木村広美
- 昭13 竹村 清 昭14 小山正三
- 昭15 上野 満

(上野満記)

洛友会ジュニア部ゴ

ルフ大会経過報告

本会は昭和38年に15名の参加者
でスタートして以来、今春までに
25回の競技会を開催してきてい
る。

特に、昨今のゴルフブームとも
相俟って、30名前後の会員の参
加を頂き、また副支部長から優勝
カップの御寄贈を頂くなど益々隆
盛になってくる。

本会は卒業25年未満の会員を一
応の参加資格とし、毎回一ストロ
ークを争う熱戦を繰り広げている。
本会は例年春秋二回開催してお
り、今回は武庫之台ゴルフ場で、
10月17日(日)10時12分より8組
(32名)を確保していますので、
常連はもとより新しく参加御希望
の方も奮って参加下さい。(尚、
毎回申込み多数につき、先着順で
締切っておりますので、早目に
お申込み下さい)

申込先 大阪市北区中之島三一五
関西電力企画部内辻村迄
電話 四四一八八二一
内線 二二四六

(キャプテン 竹山(昭26)、幹事
宮本(昭31)・難波(昭31))

昭和五十一年度洛友

会総会の記

六月五日、洛友会総会と関西支
部総会が共催にて、京都新都ホテ
ルに於て午後四時より行われた。
出席者約一〇〇名。

先づ関西支部総会が午後四時よ
り初まり伊藤俊夫支部長の挨拶の
後、浜口幹事の司会で型の如く議
事が進行し、万場異議なく可決し
た。

引き続き本部総会が近藤文治教
授の司会にて行われ、議長席には
副会長大谷泰之氏が就いて議事が
進行した。

別表に示す如く昭和五〇年度収支決算及び昭和五十一年度収支予算が万場異議なく承認された。
次に役員の変更については、全員留任の外に、左記の如く新しい役員が推薦され、万場異議なくこれを承認した。

一、松田長三郎名誉教授を副会長に推戴し、会長代行の役を御願いする。鳥養会長が、御静養中にて、代行を御願いすることになった。

一、大谷泰之教授
本年三月停年退官されたが、同氏は、洛友会の最初から面倒を見て頂いたので引き続き副会長としての役を御願いすることになった。

一、田中哲郎教授
会則第六条により教室の最年長教授として副会長に就任される。

一、阿部清名誉教授
会則第九条により顧問に推戴
一、吉田洪二氏（昭和六年卒 応用科学研究所理事長）に本部常任幹事を委嘱する。

總會終了後、懇親会にうつり、和氣あいあいの裡に午後七時頃散会した。

幹事（山本記）

昭和50年度収支決算

(昭和50年4月1日から
昭和51年3月31日まで)

収入の部

(単位円)

科 目	決 算 額	予 算 額
会 費	5,083,900	4,600,000
(講習所)	588,600	460,000
預 金 利 子	285,441	300,000
広 告 掲 載 料	1,261,000	1,300,000
雑 収 入	6,500	0
収 入 計	7,225,441	6,660,000
前年度繰越金	3,710,135	3,710,135
合 計	10,935,576	10,370,135

昭和51年度収支予算

(昭和51年4月1日から
昭和52年3月31日まで)

収入の部

(単位円)

科 目	予 算 額	前年度決算額
会 費	5,100,000	5,083,900
(講習所)	590,000	588,600
預 金 利 子	280,000	285,441
広 告 掲 載 料	1,300,000	1,261,000
雑 収 入	0	6,500
収 入 計	7,270,000	7,225,441
前年度繰越金	4,871,015	3,710,135
合 計	12,141,015	10,935,576

支出の部

(単位円)

科 目	決 算 額	予 算 額
名 簿 編 集 費	12,500	10,000
(印刷費)	3,159,500	3,500,000
(発送費)	572,301	650,000
会 報 編 集 費	4,000	5,000
(印刷費)	480,760	400,000
(発送費)	388,927	500,000
備 品 費	41,278	25,000
通 信 費	83,125	100,000
会 合 費	113,980	100,000
総 会 費	200,000	150,000
集 金 費	117,185	160,000
総 掛 費	399,925	400,000
旅 費	341,080	350,000
懇 話 会 補 助	150,000	150,000
支 出 計	6,064,561	6,500,000
次年度繰越金	4,871,015	3,870,135
合 計	10,935,576	10,370,135

支出の部

(単位円)

科 目	予 算 額	前年度決算額
名 簿 編 集 費	15,000	12,500
(印刷費)	3,500,000	3,159,500
(発送費)	650,000	572,301
会 報 編 集 費	5,000	4,000
(印刷費)	600,000	480,760
(発送費)	800,000	388,927
備 品 費	40,000	41,278
通 信 費	120,000	83,125
会 合 費	120,000	113,980
総 会 費	200,000	200,000
集 金 費	160,000	117,185
総 掛 費	450,000	399,925
旅 費	400,000	341,080
懇 話 会 補 助	150,000	150,000
支 出 計	7,210,000	6,064,561
次年度繰越金	4,931,015	4,871,015
合 計	12,141,015	10,935,576

預金および現金（昭和51年3月31日現在）

信託預金	1,000,000	普通預金	1,838,210
定期預金	2,004,782	郵便振替	921
当座預金	241	現 金	26,861
合 計	4,871,015		

昭和50年度名簿広告募集状況

支部	件数	総額	本部収入額	支部収入額
東京	87	1,640,000	656,000	984,000
関西	52	995,000	497,500	497,500
中国	12	210,000	0	210,000
四国	5	90,000	0	90,000
九州	2	30,000	0	30,000
東北	1	30,000	0	30,000
計	159	2,995,000	1,153,500	1,841,500

謹賀新年広告募集状況

	件数	総額	本部収入額	支部収入額
関西本部	18	95,000	47,500	47,500
計	12	60,000	60,000	0
計	30	155,000	107,500	47,500

納入率調べ

$2210 \div 3156 = 0.700$

(講習所) $256 \div 348 = 0.735$

講習所	講師	件数	総額	本部収入額	支部収入額
大正7年	高阪釜三郎	49	31		
昭和4年	阿部 英一	3	3		
昭和5年	伊藤 忠雄	4	4		
昭和12年	川村 進	2	2		
昭和6年	荒川徳三郎	5	5		
昭和7年	北村 信止	2	2		
昭和8年	鎌田 道也	5	5		
昭和9年	大谷 喜三	4	4		
昭和10年	近藤 良敏	5	5		
昭和11年	伴野 正雄	3	3		
昭和12年	田辺 久市	4	4		
昭和13年	樋口 良一	5	5		
昭和14年	山中 秀雄	4	4		
昭和15年	四方田秀雄	3	3		

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

○早くも夏を迎え、会員各位は益々御健勝のことと存じます。今年の総会に於て松田先生を副会長に推戴し、御静養中の鳥養会長に代り、各支部総会にも御出席頂きました。先生は、益々御元氣にて会報にも缺かさず御執筆頂き最新のニュースに御感想を書かれ会員より喜ばれて居ります。

○会報発行の度毎に、会費未納の方に振替用紙を入れ、送金の催促をしました所、納入率も上昇し本部の赤字を解消することが出来ました。各位の御協力を深謝すると共に今後ともよろしく御願い申し上げます。

(幹事 山本記)

月刊 電気評論 7月号 予告 (第110号)

定価 480円
送料 41円
(7月10日発刊)

特集・電力設備のエレクトロニクス化とノイズ対策

1. 電磁気環境工学 (E.M.C) について.....養妻二三雄 (東京農工大)
2. 高電圧送電系に発生する雑音測定法の規格 (CISPR) について.....宮島 貞光 (郵政省電波研究所)
3. 送配電線の雑音.....後沢 通弘 (電力中央研究所)
4. 半導体制御器具とそのノイズ対策.....大森 豊明・桜井 和夫 (富士電機製造)
5. 静止型継電器.....鈴木 健治・辻倉 洋右 (三菱電機)
6. サイリスタ用制御装置.....渡部 勲 (東京芝浦電気)
7. ノイズフィルタ.....加藤宇万伎 (東北金属工業)
8. 制御用コンピュータ.....井手 寿之 (日立製作所)
9. ノイズシミュレータ.....白井 忠男・川村 雄克 (三基電子工業)

【一般論文】

- ・エネルギー研究開発の長期目標.....河野 照哉 (東京大学)
- ・配電線遠方監視制御順送方式の開発.....北川 稔 (中国電力)
- ・大平発電所の電気設備について.....吉田 威彦・前野 悦夫 (九州電力)

その他【基礎講座】【海外文献等】等

株式 電気評論社
会社

本社 606 京都市左京区田中大堰町49
電話 京都(075)701-2582 郵便振替口座 京都9906